＊関 勝 則「時代を映した横浜の歌」探訪。

《11》渡辺はま子、美空ひばりが横浜開港100年を歌った「歓喜の港」「浜っ子マドロス」

写真:横浜市史資料室

この横浜の歌第1号で横浜開港五十年を記念して作られた「横浜市歌」を書きました。50年後の1958（昭和33）年、巨人の長嶋茂雄選手がデビュー、東京タワーが完成した年に横浜では開港百年祭が盛大に行われました。

その横浜開港百年祭にちなんで横浜開港百年祭実行委員会選定歌として「歓喜の港」が作られました。一般公募で選ばれた詞に西条八十が補作、高木東六が作曲、三浦洸一、渡辺はま子が歌い、レコードも作られたようですが、あくまでも開港100年を祝う歌、当然ながら全国的にはほとんど認知されないまま消えていきました。しかし、当時横浜市立の小中学生だった方たちは学校で音楽の時間に歌ったと思います。

「♪白い鴎の羽ばたきに　波が躍れば潮風歌う　ビルの窓から波止場から　ふるい歴史のページから　ミナト横浜　朝がくる　百年　百年　開いて百年　ミナト横浜　朝がくる」と、はつらつと歌う行進曲風の曲です。5月10日、平和球場（現横浜スタジアム）で皇太子さまご臨席のもとに行われた記念式典には3万5千人が参列。約1,000人のコーラス隊によって大合唱されました。

もう1曲は前年の昭和32年、横浜市等による「開港百年記念横浜の歌募集」で全国から1,200を超える応募の中から、２編が選ばれ、山口県の星野哲郎の「浜っ子マドロス」「みなと踊り」が1位、2位に選ばれました。星野哲郎は、これをきっかけに審査員をしていた作曲家の船村徹に誘われて、プロの作詞家となり、都はるみ「アンコ椿は恋の花」、水前寺清子「三百六十五歩のマーチ」、北島三郎「風雪ながれ旅」、鳥羽一郎「兄弟船」など数々のヒット曲を世に送り出し、歌謡界を代表する作詞家になりました。

♪　船の汽笛を　子守の唄に　聞いて育った　鴎だよ　まるで散歩に　出かけるように　笑って錨を　巻いた人　でもさ　人情もろくてよ　そこが浜っ子　マドロスなのさ

と歌う「浜っ子マドロス」は船村徹が作曲し5月、美空ひばりの歌唱で発売されました。B面は2位だった「みなと踊り」。翌年の開港百年祭式典では、すでに国民的な人気歌手となっていた美空ひばりが歌いました。

記念式典会場の平和球場

【1面より続く】

アビジャン自治区の新聞各紙は、横浜市からの訪問団について取り上げ、４月24日付で次のように報道しました。

「昨年9月に横浜において自治区知事と横浜市長との間で発表された共同声明を受け、横浜市副市長をはじめ市議会議員らが自治区を訪問した。知事からは、『今後の都市開発や廃棄物問題、交通問題等のプロジェクトを進める際は日本を手本にしたい。日本は規律を守り、規則正しく、そして愛情をもって仕事をする。技術力や伝統を尊重するところも手本としたい。』と述べた。これに対し横浜市副市長は、『できる限り早急にプロジェクトに着手したいと思っており、そのために我々は今回アビジャンを訪問した。』と述べられた。なお、横浜市は東京に次ぐ日本第2の都市である。」

＊コートジボワール共和国：西アフリカの中核国で世界有数の経済成長を継続（年９％）。カカオ豆の生産量は年間140万ﾄﾝで世界第１位。人口は2267万人で60以上の民族から構成される。首都はヤムスクロだが実質的な首都機能はアビジャン。

＊アビジャン自治区：人口600万人で「日仏計画」における持続可能な開発のパイロット都市。都市計画の策定や交差点改良事業、港湾施設整備などで日本政府が支援を続けている。S

視察を終えて

横浜市では３回目となる第７回アフリカ開発会議が平成31年に開催されます。過去の開催を契機に「アフリカに一番近い都市」として、これまでに水道事業や港湾施設、廃棄物対策、野生生物の保全事業といった分野で技術協力や研修員の受け入れを続け、アフリカとの連携・協力を進めてきました。

また、女性の活躍促進を目指し、毎年アフリカ各国からビジネスウーマンの方々が横浜を訪れ意見交換を行っています。さらに、若い世代のアフリカへの理解促進や相互交流を深める取組として市内の小中学校では一校一国運動を展開し文化や歴史、生活について学んでいます。

今回の滞在は短期間でしたが、横浜の取組がアフリカの地で着実に成果を上げていることが実感できました。頻繁に訪れることはできませんが、今後もできる限りお互いの顔が見えるお付き合い（都市間外交）を通して交流を深め、相互の発展につながるよう尽力してまいります。

知事・幹部と記念撮影（庁舎正面玄関）

【紙面の都合、「市会日記」は休載させていただきます。】